

美術館活用種別	団体利用 授業協力 研修協力 複製画・アートカード・プログラム貸出
タイトル	MOMASウォーク「高美展を観に行こう！」
学校名	県立浦和高等学校 原島秀行
対象	小・中学生（高校生）
ねらい	小・中・高校生が美術館につどい、高校生が作った美術・工芸作品を通して、その交流の場とする。MOMASウォーク参加の小・中学生が高校美術展の会場で作者の高校生と作品と対面し、対話や作品に触れることにより、より深く作品鑑賞への興味や、今後の美術・工芸作品の制作への意欲を持つきっかけとなるようにし、小・中・高校生のつながりを持つ良い機会とする。
美術館との手続きの仕方	小・中学生側：美術館企画の「MOMASの扉」へ参加手続きをとる。 高校生側：高校の美術の先生を通して、美術館に「高校生アーティスト」募集の用紙に必要事項を記入し、美術館へFAXする。
準備	美術館側： <ul style="list-style-type: none"> ・「MOMASの扉」の企画の中で、MOMASウォーク「高美展を観に行こう！」企画を取り入れる。 ・高美展開催期間中の土曜日の午後とする。 ・参加する小・中学生の募集。 ・当日、小・中学生たちを案内するスタッフを決め、どのような流れで生徒たちを誘導していくか検討する。 高美展側： <ul style="list-style-type: none"> ・美工研・高文連総会で県内の高等学校美術教師への、趣旨の説明と承諾。 ・高文連美術・工芸専門部事務局もしくは美術館利用研究員が美術館との連携をとる。 ・参加してくれる「高校生アーティスト」を募集する。

1 当日の様子



参加した小・中・高校生



美術館3F創作室に集合



作者の高校生が作品の説明



作者は熱く語る



小学生から質問



工芸作品の説明



さわることできる



座ることだってできちゃう



焼き物の説明



ポスター部門の説明

もっと私達が一方的に説明するだけかなと思っていましたが、たくさん意見を言ってくれて、とても楽しかったです。私達の作品の意図をもっと深くとらえた意見などもあり、とても勉強になりました。更に頑張らねばと思いました。

自分の作品について改めてよく考えられる機会になりました。小さい子達の見目はとても純粋で、新しい考えを学ぶことができました。

完成した作品についての第3者からの視線での意見が聞けたので、とても勉強になりました。自分の意志の内容が第3者に読みとれる作品作りを今後は目指していきたいです。

美術高校の作品を見れたこともそうですが、それ以上に小・中学生の子たちの感じたことは、自分も想像のつかなかったことだったりしたので、とても勉強になりました。自分の作品ですが、自分が考えてなかったようなとらえ方もあり、もっと自分も発見できるようになりたいです。

参加者から見た自分の絵の思ったところは、けっこう予想外の事が多くて、見た人それぞれにちがう考えをもってもらって良かったと思った。

大人から子供まで、たくさんの人にお話が聞けてよかったし、自分の考えを発表するいい機会になりました。貴重な体験になりました。

貴重な体験ができてとてもよかったです。自分の作品のことを人に話すのは初めてだったので、いい経験ができました。またこのようなことがあれば参加したいなと思いました。

今日このプログラムに参加して、自分の作品について話すことはとても大切なことなのだと思います。そして自分以外の視点に立って考えることもできました。今日はとても貴重な体験ができて良かったです。

今まであまり第3者からの感想というのは聞いたことがなかったので、非常にしんせんだった。自分が描いていて意図したものとは違った受け取り方、というものを取り入れられる良い機会になったと思う。

いろいろな方からの視点というのか何というのか…から感想などがもらえてとてもよかったです。自分がどう思っただけで描いたのか分かってくれた方もいて嬉しくなりました。

自分では思っていなかった感想が聞けて良かった。やっぱり自分が感じていることと、他の人が感じていることはちがうんだなと改めて思った。

自分の作品について誰かに語るというのはありそうでなかったことなので少々緊張してしまいましたが、いい経験になりました。小学生や中学生の感想を聞いて「こうゆう見方もあったのか」と私自身も勉強になったのでよかったです。

自分の想いを作品を観ながら小学生や中学生に伝えることができよかったのと、観てくれている人々の意見や感想や客観的に観てどう思うか、また観た印象なども聞けて、自分の欠点を改めて感じました。次の制作の参考になりたいと思いました。

自分の作品に対する客観的な意見を聞くことが出来て良い刺激になりました。高校生と参加者の両者にとって非常にためになるプログラムだと思います。

とても参考になった。ひとつは自分の絵の説明をすることによって良かったところ。次への改善点が把握できた。二つは小学生の意見は素直で率直なので新しい発見ができた。絵は見る側がいて初めて絵であるなと感じた。

あまり小さい子の感想は聞いたことはなく、今回参加して素直な感想が聞けたのでよかった。椅子に求められるのはデザインもあるが座りやすさも重要だということもわかった。

こんな機会なかなかないので、いい経験になりました。幼児～中学生までの年代が作品を見て思ったことと、考えたことを直に知ることができて、いろんな考えを情報にすることができました。初めての経験でしたが、とてもいい企画だったので、今後またあったら参加したいです。(5校合同展でもぜひ)

小さい子が「なぜ?」「ここはどうなの?」と自分では気がつかないような所を聞いてきて、「ああそこを見るんだ」と違った視点で作品を見れて、ためになりました。特に小学生の子は普段全くといっていい程、機会がないので良かったです。楽しかったです。

思ってたよりもリラックスしてできました。子供達がすごく美術のことにくわしくてびっくりしたけれど、おかげで話しやすかったです。始まる前は、何話そう、どうしよう…とたくさん考えていたけれど、スタッフさんの質問もたくさんあったし、自分自身案外すらすらしゃべれました。すごくたのしかったし、いい経験になったと思います。

自分以外の眼には、この作品(いす)はどう見えるのだろうかと思っていた。今日様々な人の感想を聴いたり話をしたりして楽しかった。小さい子供の感想は素直に第一印象をとらえていた。一般の人とも話をすりこぎできた。褒められてうれしいと思った。

自分の作品を他の人に説明するなんて滅多にない事なのでとてもいい思い出になりました。今回の小学生から中学生、大人の方まで幅広い世代の方々がいらしてくれましたが、世代によってこんなにも作品の見方が変わってくる事を知りました。小学生はそのまんま見て感じてくれた事をそのまま素直に教えてくれ、大人の方々は作品の技術的な事を評価してくれたり、色々学べました。又機会があったら是非参加したいです。

自分の作品について人に説明するという機会はそんなになので、今回はとても良い経験になりました。また、小さい子に説明して理解してもらうというのも嬉しかったです。他の人から見た自分の作品の印象をたくさん聞けて、とても良かったです。

他人に自分の想いを伝える難しさを知りました。緊張してうまくしゃべれなかつたりしたので、理解できる説明ができたか心配です。

自分の思惑にはまっていたり、全く違う印象を持たれたり、鑑賞してくれた人と話をするという貴重な体験ができてとても嬉しかったです。自分の絵を見て“こういう感想を持ってほしい”と思った通りにするには技術が必要なんだということが分かりました。

小さい子がゴッホ展に5回位行ったことがあるときいてびっくりした。皆美術がほんとうに好きなんだなと思った。気づかなかったことや意外なところをつっこまれたりして、新たな発見があった。まだ小学生なのに、真剣に作品について考えて質問をしてくれて、すごいと思った。

説明している時は楽しかった。間がぐだぐだになってしまう時があったので、見に来た人に質問しやすいようにふれればよかったなと思いました。もっと人が来ても対応できたので時間が長くてよかったかなと思いました。

小・中学生の子たちから思ってもいないような質問をされて、自分としても新しいことを発見できました。はじめは緊張したけれど、ちゃんと自分の思いが伝えられたのでよかったです。普段なかなかできない経験だったので勉強になりました。

3 まとめ

この企画は美術館利用研究会の中で、小・中・高校生が美術館に足を運んで、もっと美術館を利用するにはどうしたらよいか、ということから始まりました。毎年開催されている高校美術展は高校生が美術館に集まる、年に1回の大きな催しです。しかも展示される作品は、県内の美術・工芸部の生徒たちが、時間と労力、苦労を重ねて作り上げた力作ぞろいの作品です。こんな作品を小学生・中学生たちに観てもらい、しかも実際に作った高校生本人と話ができたらきっと面白い。小・中学生にとって高校生のお兄さんお姉さんたちが、どんな思いで作品を作り上げたのか興味があるでしょうし、質問してみたいこともたくさんあると思います。反対に高校生たちにとっても、純粋な目で自分の作品を観る子供たちの視線や、視点、その質問には、きっと新たな自分の作品の再発見のような気持ちにさせてもらえることでしょうし、きっと大きな発見があることと思います。それは今回参加した高校生たちが書いたアンケートにも書かれています。

少子化や地域活動の減少などにもとめない、子供同士のふれあいの場は減っています。しかも小・中・高校生が一緒の場で語ることのできる機会などはなかなかありません。この企画は、美術館と高校側との連携で可能になります。来年度以降もこの企画が継続していけるように、美術館利用研究会へ高校側からも参加して連携を深めていくことが必要であり、さらには小・中・高の美術の先生方も、気軽に参加していただける企画へと発展していくことができると素晴らしいと思います。

ㄨ(→)ラ(四)桜ワ9月○㉞㊦

㊦樹先ワ焦(金)ネ(栞)又(木)

㊦焚哲ワ涑唇ワ庫笹(七)○㉞㊦㉞ルリ(名)南(金)ヨ(栞)又(木)(七)ペバ

㊦卅繡わ確戎ワ損掌(七)匱確ワ損掌(名)南(金)(木)

㊦茂球麩ラワ攪臬ノワ焦(金)(七)9月○㉞㊦(名)南(金)(木)

美術館活用種別	授業協力
タイトル	みつけよう、あんなかお・こななかお (「MOMASの扉」のプログラムを学校用にアレンジして実施)
学校名	上尾市立 東小学校 品田 瞳
対象	小学校第1学年
ねらい	・自然物から、おもしろい顔を見つけようとする。(関) ・自分や友達の作品のおもしろさやよさに気づく。(鑑)
美術館との手続きの仕方	「教員美術講座」や「MOMASの扉」等に参加し、アドバイスや相談を受けることができます。
準備	マスキングテープ・用紙

1 何が見えるかな。(5分)



今日は、この緑の森で図工の勉強をします。

実は、この場所に、たくさんの顔やどうぶつが隠れているんだ。

この木に、なにが隠れていると思う？

きりんの首かな。

あ、このくぼみが口に見える！

・自由に見つけたものを話し合う。

・マスキングテープをちぎって、目や口を木につけて、イメージを膨らませる。

2 顔を見つけてみよう。(20分)



この場所で、たくさんの顔やどうぶつをみつけてみよう。

みつけたものに、目や鼻をつけたしたいときは、このテープをちぎってつけていいよ。

顔がみつかったら、題名をつけて作品の下にはっておいてね。

・行動範囲、安全指導を行う。

・子どもたちの関心のあるところを自由に探させる。

・なかなかみつけれない児童は、一緒に探すなどして支援する。

◎顔を見つける活動に、興味や関心を持っている。(関)【観察】

・友だちの表現を鑑賞しながら、多彩な表現を認めていく。



3 題名をあてっこしよう。(15分)

たくさんの顔や動物が見つけれられたね。
どんなものがあてられたか、お友達にあててもらおう。

・全体でクイズの方法を確認し、その後は二人組になって、互いの作品を見て回りながら、どんな顔や動物かクイズを出し合う。

◎自分や友達の作品のおもしろさやよさに気づく。

(鑑)【観察・対話】

ともだちのみつけた顔やどうぶつは、どんなだったかな。

さて、これはなんでしょう。
うーん、タコの口かな？
おいしい！正かいはサイです。
とがっているところがつのだよ。

他の友達の作品を見てみよう。

・今度は、自由に他の児童の作品を見合う。

・クイズをする活動をしていることから、子どもたちは自然に、どんな顔に見えるかや、題名を友達と話し合いながら鑑賞活動をする。

4 今日の活動を振り返ろう。(5分)

今日の活動は、どうだったかな。

・自分たちの身近にあるものが、角度を変えてみると違って見えることに気付かせる。

・今日の授業で楽しかったことを話し合い、ゆったりと活動を振り返る。

みてみて。あんなところにもかおがあるよ。
なんてだい名だろう。よくみつけたね。



児童作品



題名：すっぱいかお

目をつけたら、すっぱいかおに見えたよ。



題名：わらったかお

おちていた木のみを目にしたり、はっぱをかみのけにしました。



題名：ばくはつはかせ

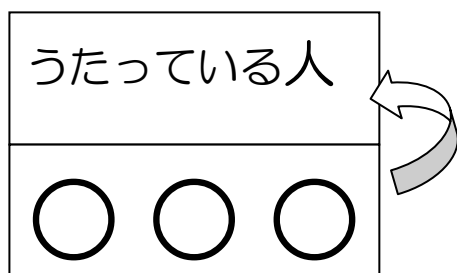
題名を「かいじゅう」や「うちゅうじん」などなやんだけど、はっぱがばくはつしたかみのけにみえたので、このだめいにしたよ。

材料について

・作品カード

B4画用紙を16等分しただけです。

表に自分の名前、めくると題名が出てくるようにしました。



授業を行ってみて

本題材は、MOMASの扉の鑑賞プログラムの内容を、学校向けにアレンジして行ったものです。普段子どもたちの生活圏にある学校の樹木から、顔や動物を見つけるという活動は、小学校1年生に合った題材だったと思います。最初から最後まで、意欲的に取り組んでいました。

児童の中には、つけるのに時間がかかる児童もいました。そういった児童も友達と話し合いながら、時間をかけてつけていました。また、マスキングテープで目や口を付け足すということも、ほぼ全員が理解して活動していました。1,2名、目・鼻・口などをほとんどマスキングテープを使った児童がいました。その作品は認めつつ、他の場所では樹木の形を手掛かりに見つけられるように支援しました。

学習形態は、全体→個人→全体→ペア→グループ→全体 という形で、方法を伝えながら活動しました。低学年は教師による鑑賞の視点の言葉がけが助けになる部分が多いため、野外での鑑賞活動には不安もありましたが、クイズを出し合うなどのゲームを取り入れると、友達同士でも鑑賞に集中して取り組むことができました。

・マスキングテープ

手でかんたんにちぎれ、どこにでも貼り付けることができます。木を傷めません。ホームセンターなどで安価で購入できます。色もいろいろあります。

美術館活用種別	授業協力
タイトル	下をむいて あるこう (「MOMAS の扉」のプログラムを学校用にアレンジして実施)
学校名	上尾市立 東小学校 品田 瞳
対象	小学校第 1 学年
ねらい	・こすりだしの方法を知り、興味や関心を持つ。(関) ・自分や友だちの活動の違いや、写し取った形のおもしろさやよさに気づく。(鑑)
美術館との手続きの仕方	「教員美術講座」や「MOMAS の扉」等に参加し、アドバイスや相談を受けることができます。
準備	ロール紙・コピー用紙・クレヨン



1 うつしてあそぼう。(30分)

この絵、なんだとおもう？

(フロッターージュで写し取った絵を見せる。)

でこぼこしたところやものに、紙をのせてクレヨンでこすると、おもしろいことがおきそうだね

・自分たちの身近にあるものを写し取って、面白い形が浮き上がってくることに気付かせる。

・身近なものを使って写し取りながら、フロッターージュの方法をつかませる。

◎こすりだしの方法を知り、興味や関心を持つ。(関)【観察・作品】

いろいろなかたちがみえてきたよ。

2 どんなものがうつせたかな。(10分)

・友だちの表現を鑑賞しながら、多彩な表現を認めていく。

・自分や友だちの作品を見合い、写し取った形のよさを話し合う。



3 みんなでいつも歩いている地面を写し取ってみよう。(30分)

こんどは、みんなで一枚の紙に地面を写し取ってみよう。

どこに紙を置いたらおもしろそうかな。

いろいろないろで、地面を写し取ってみよう。



・地面にロール紙を広げて、写し取ることを伝える。

・行動範囲、安全指導を行う。

・子どもたちの関心のあるところを自由に写し取らせる。

◎こすりだしの方法を知り、興味や関心を持っている。(関)【観察】

あ！なんかすう字が出てきた。
マンホールにかいてあるすう字が
うつったんだ。

わあー、きれい！
にじいろの滝みたいだね。



おなじアスファルトでも、いろを
かえるとおもしろいよ。
半分のマンホールをちゃいろで
こすりだしたら山にみえてきた。



このマンホールのところが島で
ね、まわりがうみなんだよ。
あっちにはにじがでているよ。



4 どんなものができたかな。みんなでみてみよう。 (20分)

みんなで写し取った地面をこれから空から垂らしてみたいと思います。いつも歩いている地面を空から垂らしたら、どんな見え方がするかな。

- ・ロール紙を体育館の上からたらしてみること知らせ、ロール紙を巻く。



寝転がって見てみよう。

- ・自分たちが下に見ていたものが、角度を変えてみると違って見えることに気付かせる。

わあー、きれい！
にじいろの滝みたいだね。

- ・地面が垂直に立ち、反対に自分たちが寝そべて作品を見ることで、さらに視点を変えてみる。



ふしぎなかんじがするよ。
じめんじゃないみたい。

みんなでうつしとるのがとても
たのしかったよ。



ほかのはんもじょうずだね。
じめんがいろんないろにへんし
んしてきれい。

◎自分や友達の活動の違いや、写し取った形のおもしろさやよさに気づく。
(鑑)【観察・対話】

- ・今日の授業で楽しかったことを話し合い、ゆったりと活動を振り返る。

授業を行ってみて

本題材は、MOMASの扉の鑑賞プログラムの内容を、学校向けにアレンジして行ったものです。

開隆堂の1・2上の中の題材「うつしてあそぼう」の活動を第一次に行い、そこから、地面を写し取る活動に発展させていきました。第一次では、なかなかしょうずに写し取れない児童などもいて、楽しさが十分に味わいきれない感じがしました。ところが、ロール紙を使って活動を始めた途端、児童の活動が活発になり、生き生きと楽しんでいました。

ロール紙は、職員作業のペンキ塗り用で使ったあまりが倉庫に眠っていたので、材料費は0円でした。大きい紙に写し取るという活動は、場をある程度固定することになりますが、そこから「色を変えてみよう」「木切れを持ってきて下に入れてみよう」「虹のもようになるように」と、アイデアが次々と生まれてきました。授業をする前は、フロタージュから離れてしまうのでは？という予想もしましたが、本時では本題材のねらいに沿って活動できていました。

最後に、ロール紙を体育館の上から垂らして鑑賞をしました。垂らした瞬間、「わあー！」という歓声があがりました。小さい紙では感じることのできない、ダイナミックな鑑賞活動ができました。ただ、担任一人では上に行ったりしたに行ったり・・・と、児童と共に鑑賞できない場面もあったので、アシスタントの方などをお願いするとよいかもしれません。

埼玉県立近代美術館のプログラムを参考にさせていただくことで、学校でも、場の設定をまだまだ工夫できることがわかりました。